

②さいたま市図書館に関連ある新聞記事

平成25年度に各新聞に掲載された、さいたま市図書館に関連する新聞記事を載せてお
ります。

《さいたま市図書館に関連する新聞記事一覧》

掲載年月日	掲載紙	記事見出し
平成25年5月30日	朝日新聞	北本市などの行政サービス単価比べ／全国から72市参加
平成25年7月19日	読売新聞	さいたま市図書館がお薦め本リスト配布
平成25年12月25日	埼玉新聞	ふゆの子ども会（中央図書館）
平成26年1月28日	埼玉新聞	子育て支援 児童書充実 武蔵浦和図書館（南区）
平成26年1月30日	埼玉新聞	貸出3カ月200冊／小説『レガッタ!』人気
平成26年2月8日	埼玉新聞	創作小説講評も／「レガッタ!」作者が講演
平成26年3月16日	埼玉新聞	当時の世相振り返る／北浦和図書館開館40周年
平成26年4月16日	埼玉新聞	忘れられた映画館発掘／北浦和図書館 町並みの変遷調査

子育て支援 児童書充実



さいたま市内17館目の市立図書館として、昨年1月に開館した浦和の武蔵浦和図書館。高層マンションが次々に建ち、若い世代が急増する地域のニーズに応えるため、子育て支援や児童書充実に力を入れている。開館1年目の貸出数は約4万冊、中央、北図書館に続き市内3位。児童書は約2万8千冊で市内1位、県内トップクラスに。また、おはなし会や上野会、絵本講座など親子向けイベントを1年間での開館記念、延べ約2千人が参加、好評な盛り出しとなった。

（立山 穂）

武蔵浦和図書館（南区）

●児童書貸出数、市内1位
開館は武蔵浦和駅徒歩1分、複合公共施設サウスピアの2、3階。吹き抜けがあり、明るく開放的な雰囲気だ。

所蔵資料数は約1万冊の子どもの本で、世代の人口が多い南区の拠点図書館として、児童書の割合を30%と高め、施設、冊子の両方で黒川芽実さん(40)は「児童書は再版されないことが多く、新設館が買えるものが多い。他の図書館から古い本や寄贈本をいたたき、充実させることができた」と明かす。

児童書貸出数が多い市内1位となり、うれしい結果で、勢いに乗ります。黒川さん、子育て支援コーナーも充実させ、各種イベントが盛り込まれるほど利用者が多いという。

開館を利用する主婦、真野玲子さん(47)らは「持ち帰っていた地元の図書館。これまでは移動図書館を利用していた。子どもたちが来やすくなった」と、よくと使いの感謝点を挙げる。

●市民協力で成長
絵本読んで、絵本や紙芝居の読み聞かせを奨励する庄原府村さんの「おはなし室」もある。22日のお話し会に、6カ月と1歳の息子2人を連れて参加した牧野夏奈子さん(38)は「とてもきれいで便利。図書館でママ友つながりができます」とは笑顔で話した。

図書館は、多くの親子が訪れる1階の子育て支援センターでも赤ちゃんおはなし会を毎月で

子育て支援 児童書充実
武蔵浦和図書館（南区）
埼玉新聞 平成26年1月28日

②さいたま市図書館に関連ある新聞記事

貸し出し3カ月200冊

小説「レガッタ！」人気

さいたま市南区の武蔵浦和駅前のサウスピア内にある武蔵浦和図書館で、2月2日に開館1周年記念講演を行う、さいたま市在住の児童文学作家濱野京子さん(57)の本が、貸し出しが追いつかないほど好評を呼んでいる。

2日、濱野さん講演

濱野さんの講演のテーマは「物語を作る楽しみ」創作の舞台裏を語る。午後2時から4時まで。入場無料。定員は180人(先着順)。濱野さんの著作の特設コーナーは2月末まで設けているという。問い合わせは、同図書館(2504・8・844・7210)へ。(タウン記者・西山友紀)

「貸し出し3カ月200冊
小説『レガッタ!』人気」
埼玉新聞平成26年1月30日号

忘れられた映画館発掘

北浦和街並みの変遷調査
図書館

さいたま市立北浦和図書館(浦和区)は開館40周年記念事業として、同館の前身である北浦和映画劇場(シアターパール)をはじめ、戦前から昭和50年代までの街並みの変遷を明らかにした冊子「北浦和歴史再発見」(A4判製)を発刊した。1500冊印刷、市内図書館などで閲覧できる。(立山優二)

開館40周年で冊子に

浦和区 同図書館は1974年、旧浦和市の中央館として開館。



冊子には豊富な写真や地図を掲載。左側の写真は昭和30年代のシアターパール(キネマ旬報社刊物より)、右側の地図は昭和8年ごろの浦和案内パンフレットで、北浦和駅は「新駅予定」と記されている

それまで敷地には映画館が建っていたが、詳細な資料がなかったため、図書館側で調査した。調査によると、映画館は戦後間もない50(昭和25)年、県内唯一の洋画館(当時)として開館。真珠の玉に白く輝く外観のため「シアターパール」と呼ばれたという。53年へのパンフレットによると「風とともに去りぬ」「ローマの休日」などを上映。料金はコーヒー杯代だった。当時、パンフレット付きで1200円。「料金は他館より高かった」という市民の記憶も。

調査には「収容人員800人のところ、千人近い客であふれ返った」という証言もある。だが昭和30年代後半、大宮など文京都市に洋画専門館が開館して競争が激化、71(昭和46)年に閉館したとみられる。調査に協力した市民からは「洋画の封切館として広々とした。青春時代の忘れられない居場所の一つだった」(60代男性)など、懐かしむ声も寄せられている。

「忘れられた映画館発掘
北浦和図書館 町並みの変遷調査」
埼玉新聞平成26年4月16日号